

2020年度 アppeール会本部役員会議事録

1. 開催日時 2020年6月26日(金) 14時～17時

2. 開催場所 東洋食品工業短期大学 会議室

3. 出席者

会長・四国支部長	西山 正一	
副会長	田中 喜徳	
同	松原 清俊	
北海道支部長	豊田 勝己	
関東支部長	篠原 龍浩	
近畿支部長	長塚 洋二郎	
会計幹事・事務局長	斎藤 至康	
会計監査	本間 欽吾	
同	中野 栄介	
相談役	野上 健次	(10名)

欠席者

副会長	富樫 健	
東北支部長	三枝 通晃	
信越支部長	中村 正和	
静岡支部長	石田 雅則	
名古屋支部長	岡本 雅志	
中国支部長	竹内 毅	
九州支部長	原 裕久	(7名)

定刻 西山会長より

例年4月に行われる役員会が今年はコロナウイルス感染の影響で、開催も危ぶまれていましたが皆様のご協力があり本日実施する事となりました。役員17名のうち本日出席は10名で、残りの役員からは委任状をいただいております。

—千本学長から短大の近況報告について—

短大の近況報告の冒頭にあたり学長より、昨年は自然災害による被害の続発、今年にはコロナウイルス感染によりアppeール会会員の家族やビジ

ネス関係で、多大な影響が出たことに関してお見舞い申し上げます。

【卒業生・入学生等について】

今年3月に卒業した58期生卒業生35名中、進学者1名、企業よりの派遣7名を除く27名全員が内定先に就職4月から勤務されています。

今年度60期生の入学状況は、志願者数47名で試験の結果入学選抜をして35名の方が入学されました。

ただ少子化による志願者数が徐々に減少の傾向になっており、危機意識を感じながら、何とか豊かな志願者を募り本学にふさわしい人材を集めると共に、学生にとって本学の知名度や魅力度を高める努力をしていく必要性を感じております。

現在の在学生状況は、1年生が35名2年生が32名の合計67名で、男女比の割合は3割が女性の構成で教育をしております。

【社会人向け講習会について】

昨年実施した社会人向け講習会の実績については、東洋製罐グループが主催した講習が4件ありましたが、今春のレトルト食品製造技術講習会は、コロナウイルスの影響で見送りとなりました。

本学主催の社会人育成講習会は、夏休みの間合計で4週間4つのコースを設定して、一昨年に比べると受講者数が増えており、今後も増えることを願っています。

【外国人向け短期研修会について】

昨年秋の短期研修はタイから7名が参加され実施しましたが、今春の研修は残念ながらコロナウイルスの影響で中止となりました。

【研究テーマについて】

今年度の研究テーマの状況について、今年は合計で24件あり、共同研究、受託研究、一般研究に分類されています。

今後食品会社等の「現場での困ったこと」や「製造や開発の悩み事」等がすぐに耳に入るような関係の構築、積極的に我々が持っている知識の提供を目指し、結果として共同研究、受託研究件数の増加に繋げていき、卒業生を採用していただき活躍する事により、良いパートナーシップになるのではないかと考えております。

以上のような研究を続ける上にも、毎年毎年の投資活動は継続をしていきたいと考えています。

【投資案件について】

今年度の投資案件については色々とありますが、特に情報通信技術の活用をする為の、設備の充実に力を入れております。

もう一つは建物が古くなってきており、電気設備等のインフラの老朽化対

応に費用の増加が見込まれます。

【教育内容について】

教育内容の傾向については、一言でいうと「多様化」であり、以前は缶詰・二重巻締・レトルトの3つの技術要素を中核に、単品・大量生産・低コストの製造方式の中で活躍できる教育をしてきましたが、近年は多様化してプラスチック容器・キャッピング・アセプティック・チルド等に関する教育範囲を広げて、また生産方式についても、多品種・効率生産・高付加価値の多様化に、対応できる教育を目指しております。

今年度の計画活動行事については、コロナウイルス感染の影響を受け予定された行事が中止や規模縮小となっています。

新学期早々に兵庫県の知事から「臨時休校要請」が出され、学生の登校が出来ず学びが進行しなくなるので、何とかオンライン授業を取り込む事で急場をしのぎ、6月からは教室での授業が出来るようになりました。

【短大からのお願い事項として】、

短大運営上の重点課題として、少子化で学校に来る若者の減少により、学生の奪い合いが起こり、差別化できる「特徴」を持った短大しか生き残れないと思っており、その為には「人材」「設備」「資金」の3本の柱を充実させる為に、各方面に対して「ご寄付のお願い」を実施中であります。

中期目標として2024年3月までに入学志願者数を増やし、本学の卒業生を求める企業の数も増やしていく考えであります。

その為にも意欲と素養のある学生を集め、社会に役立つ人材に育て、優良企業に卒業生を採用してもらおう事で、本学の魅力度をアップしていきたい。本学の「社会人推薦制度」を活用して、各企業に有望な新入社員または若手社員がおられましたら2年間本学に預けて頂き、食品包装に関する「技能」と「魂」を持った人材に育て上げますので、ぜひご検討をお願いいたします。

最後に アppeal会の皆様に対して、OB会は大学の一番の理解者であり、最強のパートナーでAppeal会の活性化に協力をして、関係を強化する事で「卒業生にとって頼もしい短大」を目指したいと考えております以上が本学の近況報告とお願い事項の説明とさせていただきます。

—鈴木学科長から「鳥羽市海の博物館企画展」に関する協力依頼について—
本年3月25日に鳥羽市立海の博物館の縣学芸員が来校され、海の博物館にて、地域と日本全体の缶詰産業を軸に、水産缶詰の特別展開催の話がありました。

この企画展は、高崎達之助氏が技術者として就職された東洋水産が、三重

県に在った事から、その創始者である石原円吉氏との関係に於いて本学への協力依頼となりました。

日程は9月12日～来年1月11日まで鳥羽市立海の博物館にて、「あなたの知らない水産缶詰の世界」という企画で開催されます。

企画案としては3章あります。

1章が缶詰誕生の前段階の海産物の保存、加工方法の紹介。

2章が缶詰製造の基本的な工程の解説をして、高崎達之助氏関連の資料展示も予定されています。

3章が現在の缶詰事情という事で、水産缶詰の展示や本学からは教員を派遣して缶詰の巻締体験や、「缶詰ラベルデザインコンテスト」で選ばれたラベルを缶詰に巻その中身に対して鳥羽の名産の魚介類を使用しての製造に協力をいたします。

今回アピール会の皆様への協力依頼は、企画展の中で「全国の海産物缶詰の展示会」を検討されており、3m×2m程の展示スペースの台上に日本地図を配置して、各地の缶詰の展示を行うという企画であります。

ご賛同いただける企業様には一押しの商品を並べて、企業・店舗のパンフレットや宣伝用パネルの設置も可能であります。

ついてはアピール会を通じて、全国から海産物の缶詰を集めたいと思い、ご賛同いただける企業様がおられましたら、缶詰のご支給ご検討をお願いいたします。

開催時期が9月初めの為、窓口は私どもが努めさせていただきますので、7月31日までにご連絡をお待ちしております。

以上が海の博物館企画展へのご協力依頼についての説明とさせていただきます。

ー宮尾准教授から「社会人向け HACCP 教育」のご提案についてー

3年ほど前から本校の HACCP 教育が変わってきており、その点からのご説明をさせていただきます。

本学に於ける HACCP 教育については、2年前から食品加工室において HACCP 対応のハード面の整備工事が行われています。

その後2018年4月より実践的な HACCP 教育がスタートしており、同年11月に HACCP チームを結成して、ATP 検査等のキットを購入して組織的な面の整備を行いました。

本年3月に JFS - B 規格に準じた衛生管理規定を完成いたしました。

本年度入学の60期生より新たな HACCP 教育を開始いたします。

ハード面の一例をあげると、手洗い設備が1か所であった設備を4か所に

増設しました。

昨年には食品安全方針を作成して、HACCP に基づいた食品安全マネジメントシステムを構築し、関係法規法令・条例等を守り、食品安全を確保いたします。

また 全ての学生に衛生管理の重要性を認識させて、食品安全に関する知識の向上を図る事を目標に実習を行って、より食品工場に近い状態で HACCP 教育を実施しています。

社会人向け HACCP の講習会として 2 つ考えており、1 つは業種を絞った HACCP (3 日コース) の講習会の開催で、2021 年度以後の開催を考えております。

もう一つは自社の設備を前提とし、HACCP を実行する為の講習会を今年度より開催したいと考えています。

2020 年度 HACCP 講習会プログラムの案内としては、

① HACCP プラン理解コース (初級) として、企業の品質管理部門と短大講師で作成した HACCP プランを基に、従業員の方々へ説明をし理解を深めるコース。

② HACCP プラン作成コース (中級) として 2 日間掛けて、従業員と短大講師で製造品目を対象に HACCP コースを作成する。

2 コースがあります。

以上が社会人向けの HACCP 教育についての説明とさせていただきます。

ー西山会長よりー

只今から議題に移らせていただきます。

4. 議題

第 1 号議案 2019 年度収支決算報告の件

斎藤会計幹事より別添資料 1 に基づき報告、併せて中野会計監査より監査報告があり異議なく承認されました。

第 2 号議案 2019 年度会費納入状況報告の件

斎藤事務局長より別添資料 2 に基づき報告、原案通り承認されました。

第 3 号議案 2019 年度支部活動報告の件

各支部長等より 2019 年度の支部活動および 2020 年度の活動計画について報告がありました。

「北海道支部」

昨年 10 月 26 日に札幌市で支部総会を開催、支部会員の出席者は 5 名。

本部役員として富樫副会長、東北支部からオブザーバーとして 3 名が出

席しました。

学校からは千本学長他 1 名が出席、学長が短大の近況について報告、鈴木学科長が「プラスチックの役割と課題」についての講演が行われた。例年総会の案内状を出すのが音沙汰がなく、電話をしても返事がない状態です。

今年度はコロナウイルス感染の影響で開催を見送る考えです。

「関東支部」

昨年度は幹事会を 2 回（5 月と今年の 2 月）開催され、支部総会は 7 月 27 日に東洋製罐本社にて開催、会員出席者は 14 名。

学校からは千本学長が出席され、短大の近況についての報告、日本缶詰びん詰レトルト食品協会の金村氏による、「缶詰・びん詰・レトルト食品の最近の動向について」の講演が行われました。

昨年台風 15 号が千葉県を直撃した為、千葉県在住の会員 40 名に対して電話にて被害状況を確認しましたが、幸いにも家屋の全半壊はなく瓦の飛散や停電・断水の被害が数件で収まっています。

毎年夏に支部総会を開催していますが、今年はコロナウイルス感染の影響で開催は難しいと思われます。

また今年は支部役員改選の年であり、代表幹事だけで新しい支部長・副支部長等を決めていく考えです。

「近畿支部」

昨年 10 月 18 日にエム・シーシー食品（株）甲南工場にて支部総会を開催。会員出席者は 18 名（男性 15 名・女性 3 名）。

本部役員として西山会長が出席しました。

甲南工場のビデオ紹介と会社説明を受け、学校からは千本学長を含め 5 名が出席され、学長が短大の近況について報告、鈴木学科長が「食品包装プラスチックの役割と課題」についての講演が行われました。

今年を含め 3 年間、会社見学を兼ねて総会を開催してきましたが、平日の開催というデメリットもあり、会員の人数が多い割には出席者が少なく、メンバーも固定化しているため、今年は打開策として近畿周辺の支部と合同で学校での開催を検討中ですが、コロナウイルス感染の影響の程度により見送る可能性もあります。

「四国支部」

今年 2 月 15 日に善通寺市にて支部総会を開催。会員出席者は 10 名。

学校からは千本学長を含め 3 名が出席されました。

前日に先生方に讃岐缶詰の工場見学をして、現場にてアドバイスもいただき有意義な時間が取れた事は、今後の新しい取り組みになればと考え

ています。

総会では学長が短大の近況報告、鈴木学科長が「食品包装プラスチックの役割と課題」についての講演と質疑応答が行われました。

現在、会長と支部長職を掛け持ちの為、支部長職の交代を検討しております。

今年の支部総会については、近畿支部が秋に合同で総会を考えておられ、四国の会員の中には学校に行くのもいいだろうとの声もありますが、単独に開催となると来年の2月中旬を考えています。

「九州支部」

昨年9月21日に博多で支部総会を開催。支部会員の出席は13名。

学校からは千本学長他1名が出席され、学長が短大の近況について報告、八木教授が「包装食品工学科、分析グループの取り組みについて」についての講演が行われました。

今年は9月に1泊2日で研修を兼ねて総会をする予定をしていましたが、コロナウイルス感染の影響で、総会と懇親会のみに変更して準備中ですが、状況次第では中止もあり得ます。

第4号議案 2020年度収支予算書（案）報告の件

斎藤会計幹事より別添資料3に基づき報告、原案通り承認されました。

第5号議案任期満了に伴う役員改選の件

今年は平成30年の役員改選後2年が経過、アピール会会則第19条の「役員改選」の年であり、それにより議論され次のように決まり了承を得ました。

田中喜徳副会長⇒鈴木稔副会長（T-16期生）に交代

「2020年度役員」

会長・四国支部長	西山 正一（留任）
副会長	富樫 健（留任）
同	鈴木 稔（新任）
同	松原 清俊（留任）
北海道支部長	豊田 勝己（留任）
東北支部長	三枝 通晃（留任）
関東支部長	篠原 龍浩（留任）
信越支部長	中村 正和（留任）
静岡支部長	石田 雅則（留任）
名古屋支部長	岡本 雅志（留任）
近畿支部長	長塚 洋二郎（留任）
中国支部長	竹内 毅（留任）

九州支部長	原 裕久 (留任)	
会計幹事・事務局長	斎藤 至康 (留任)	
会計監査	本間 欽吾 (留任)	
同	中野 栄介 (留任)	
相談役	野上 健次 (留任)	(17名)

第6号議案 その他

① 会費免除について

例年専修学校卒業の会員数名から、「会費免除」についての問い合わせがあり、本部として今後の対応について討議しましたが、現状の会則には「会費免除」の項目はなく、各人のアップール会に対する考えや思いがあり、現時点において一律に線引きをすることは難しく、各会員の意思判断に任せるという事です承しました。

② 自然災害に於ける状況確認等について

近年地球温暖化等により大規模な災害が発生して、会員の方々の住居等においても甚大な被害を受けられております。

その被害状況については、各支部ごとに電話等により確認をして本部に連絡するという体制となっており、その確認に要した費用については、各支部で負担していただくのが原則であるが、状況によっては本部と相談して処理をしていく事です承した。

また被害状況によっては、アップール会より「見舞金」(50,000円を上限)を拠出していますが、その判断についても本部との相談のうえ、処理をする事です承した。

以上、本日の議案審議全て終了し閉会。

[資料編]

- 別添資料 1 2019年度 アップール会本部 収支決算報告書
- 別添資料 2 2020年度 支部活動助成金 支払明細書
- 別添資料 3 2020年度 アップール会本部 収支予算書(案)

2020年6月26日

2019年度 アップール会本部 収支決算書

[自 2019年4月1日 至 2020年3月31日]

単位:円

収 入				支 出			
摘 要	2019年度 予 算	2019年度 決 算	増 減	摘 要	2019年度 予 算	2019年度 決 算	増 減
前期繰越金	5,554,968	5,554,968	0	本部役員会開催費	600,000	573,955	△26,045
第59期生入会金	1,020,000	1,020,000	0	支部活動助成金	258,300	258,300	0
年会費	760,000	718,000	△42,000	支部総会出席役員旅費等	300,000	134,093	△165,907
役員懇親会費	60,000	60,000	0	学生会バスツアー援助金	300,000	282,180	△17,820
預金利息	710	756	46	災害援助ボランティア活動費	6,000	5,930	△70
				会費振込用紙・封筒作成費	150,000	159,624	9,624
				会費納入願書等郵送費	110,000	120,092	10,092
				年会費振込手数料	28,500	42,194	13,694
				卒業式・入学式祝電代等	8,000	3,148	△4,852
				年会費返金 3名	0	6,000	6,000
				会計・事務処理業務費等	250,000	254,360	4,360
				雑費	5,000	2,592	△2,408
				次期繰越金	5,379,878	5,511,256	131,378
合 計	7,395,678	7,353,724	△41,954	合 計	7,395,678	7,353,724	△41,954

上記 記載事項について相違ないことを認めます

2020年6月 26日

会計監査

本間 欽吾 印

中野 栄介 印

資料 2

2020年度 アップール会支部活動助成金 支払明細書

(2019年度本部会費入金に基づく)

支払日 2020年6月26日

支部名	会員数	会費入金 口数	入金率 %	支部活動助成金		受領印
				単価(円)	助成額(円)	
北海道	22	8	36	700	5,600	
東北	141	57	40	700	39,900	
関東	223	67	30	700	46,900	
信越	41	10	24	700	7,000	
静岡	125	25	20	700	17,500	
名古屋	82	18	22	700	12,600	
近畿	449	83	18	700	58,100	
中国	65	17	26	700	11,900	
四国	118	33	28	700	23,100	
九州	191	38	20	700	26,600	
計	1,457	356	24	700	249,200	

2020年度 アップール会本部 収支予算書(案)

[自 2020年4月1日 至 2021年3月31日]

収 入		支 出	
摘 要	金 額(円)	摘 要	金 額(円)
前期繰越金	5,511,256	本部役員会開催費	300,000
第60期生入会金 (@30,000×35名)	1,050,000	支部活動助成金	280,000
年会費 (@2,000×360口)	720,000	支部総会出席役員旅費等	200,000
役員懇親会費	0	学生会バスツアー援助金	300,000
預金利息	750	災害援助ボランティア活動関係費	6,000
		会費納入願書等郵送費	125,000
		年会費振込手数料	37,000
		振替振込手数料 30,000	
		自動振込手数料 7,000	
		卒業式・入学式祝電代等	8,000
		会計・事務処理業務費等	250,000
		雑費	5,000
		次期繰越金	5,771,006
合 計	7,282,006	合 計	7,282,006